



令和8年度 果樹情報 第13号

(令和8年9月18日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (9月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が22.3℃で平年より1.6℃低く、第2半旬が20.9℃で平年より2.5℃低く、第3半旬が20.9℃で平年より1.5℃低く経過しました。

この期間の降水量は139.0mmで平年比171%と平年より多くなりました。日照時間は43.5時間で平年比53%と平年より少なくなりました。

2 土壌水分 (9月15日現在、果樹研究所)

9月15日時点の土壌水分(pF値:果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)は、深さ20cm、40cmで1.8、深さ60cmで1.7となっており、概ね適湿状態です(図1)。

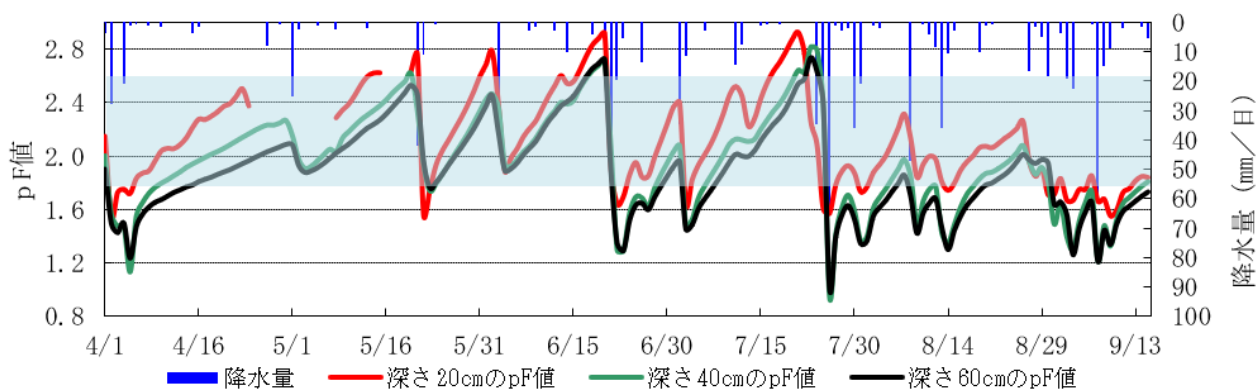


図1 土壌pF値の推移(果樹研究所なしほ場:草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8~2.6)

3 発育状況 (9月16日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 収穫状況

「さくら白桃」の収穫開始は8月31日で平年より8日早く、収穫盛期は9月5日で平年より7日早くなりました。果実の大きさは599gと平年よりかなり大きく、糖度は12.8°Brixと平年よりやや低くなりました(表1)。

表1 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(°Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/26	7/ 5	6/30	7/ 1	7/ 8	7/ 4	7/ 6	7/11	7/ 7	301	273	316	11.7	11.8	13.0
日川白鳳	7/ 2	7/10	7/ 3	7/ 4	7/13	7/ 6	7/ 9	7/17	7/10	288	237	251	12.2	11.3	13.3
暁 星	7/ 9	7/19	7/15	7/13	7/23	7/18	7/16	7/27	7/24	260	222	198	14.5	13.0	14.2
ふくあかり	7/13	7/20	7/18	7/19	7/25	7/24	7/22	7/29	7/28	367	274	302	14.9	13.0	15.8
あかつき	7/21	7/29	7/25	7/25	8/ 1	7/29	8/ 3	8/ 7	8/ 4	395	284	341	13.0	13.1	14.3
まどか	7/28	8/ 7	8/ 4	7/31	8/11	8/ 7	8/10	8/15	8/11	394	354	323	12.7	14.0	16.9
川中島白桃	8/10	8/20	8/21	8/16	8/23	8/27	8/21	8/27	9/ 1	429	372	364	12.9	13.4	16.5
ゆうぞら	8/17	8/26	8/19	8/19	8/30	8/22	8/24	9/ 4	8/28	418	355	377	13.0	13.0	14.4
さくら白桃	8/31	9/ 8	9/ 4	9/ 5	9/12	9/ 6	9/ 9	9/12	9/10	599	415	522	12.8	13.5	16.8

注) 平年は、1996~2025年(「まどか」は2002~2025年、「はつひめ」「ふくあかり」「さくら白桃」は2010~2025年)の平均値

(2) なし

ア 収穫状況

「豊水」の収穫盛期は9月9日で平年より6日早く、昨年より3日早くなりました。
 果実の大きさは453gで平年並、糖度は12.0° Brixで平年よりやや低くなりました(表2)。
 「二十世紀」の収穫盛期は9月9日で平年より9日早く、昨年より4日早くなりました。
 果実の大きさは488gで平年より大きく、糖度は10.9° Brixで平年並でした(表2)。
 「あきづき」の収穫開始は9月16日で平年より8日早くなりました(表2)。

イ 成熟状況

「あきづき」の満開後150日における成熟調査の結果は、果実硬度が4.5ポンドで平年よりやや低く、糖度が10.9° Brixで平年より低く、果皮中クロロフィル含量は4.6μg/cm²で平年より高くなりました(表3)。
 「ラ・フランス」の満開後150日における成熟調査の結果は、果実硬度が15.8ポンドと平年より高く、デンプン指数が4.6と平年よりやや高く、糖度が12.3° Brixと平年並となっています(表4、図2、3)。

表2 なしの収穫状況

品種		収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸	水	8/13	8/22	8/18	8/22	8/27	8/23	8/26	9/ 1	8/28	409	393	353	11.6	12.4	13.1
豊	水	8/31	9/ 9	9/ 4	9/ 9	9/15	9/12	9/14	9/21	9/16	453	439	482	12.0	12.9	13.9
二十世紀		9/ 9	9/15	9/11	9/ 9	9/18	9/13	9/ 9	9/22	9/29	488	418	366	10.9	11.0	11.8
あきづき		9/16	9/24	9/17	未	9/27	9/26	未	10/2	9/16	未	477	528	未	12.9	13.5
ラ・フランス	未	10/3	10/2	未	10/3	10/2	未	10/5	10/2	未	314	370	未	13.0	14.8	

注) 平年値は、1996～2025年の平均。未は未確定。

表3 「あきづき」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			糖度(° Brix)			果皮中クロロフィル含量(μg/cm ²)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
150	4.5	4.7	6.2	3.3	3.2	3.8	10.9	12.4	13.3	4.6	3.9	3.8
リンゴ酸含量												
生育日数	(mg/100ml)											
	本年	平年	昨年									
150	0.12	0.11	0.11									

注) 平年値は、2007～2025年の平均

表4 「ラ・フランス」の成熟経過

満開後 日数	硬度(lbs.)		地色		デンプン 指数		糖度 (° Brix)		リンゴ酸含量 (mg/100ml)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
140	14.0	12.6	2.1	2.5	5.0	4.8	11.6	11.7	0.26	0.27
146	11.6	12.3	2.3	2.7	4.9	4.6	12.2	11.8	0.28	0.25
150	15.8	12.0	2.7	2.8	4.6	4.4	12.3	12.1	0.31	0.26

注) 平年値は、1996～2025年の平均

デンプン指数は、染色が濃いほど未熟

指数1：10%以下染色、指数2：30%程度染色、指数3：50%程度染色

指数4：80%程度染色、指数5：100%染色

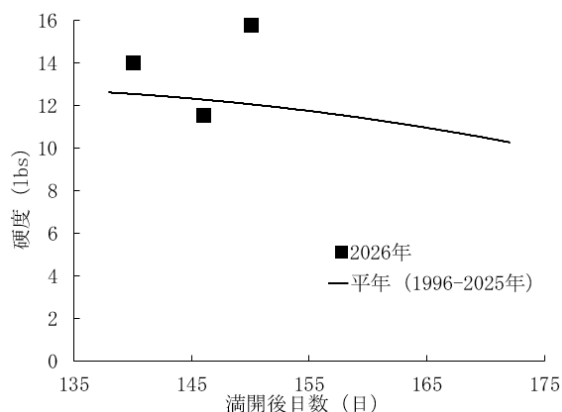


図2 「ラ・フランス」の果実硬度の推移

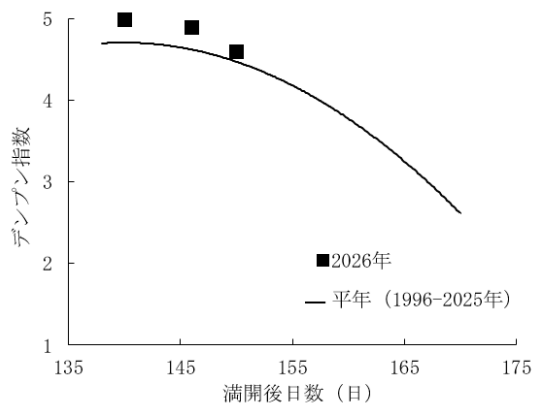


図3 「ラ・フランス」のデンプン指数の推移

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が 80.7 mm (平年比 105%)、横径が 86.5 mm (平年比 103%) と平年並の状況です。

満開後日数での比較においても平年並です。

イ 成熟状況

「ふじ」の満開後 149 日 (9 月 15 日) における成熟調査の結果は、果実硬度が 14.5 ポンドと平年より低く、糖度は 11.6° Brix で平年よりやや低く、リンゴ酸含量は 0.46mg/100ml で平年より高く、デンプン指数は 2.9 で平年並となっています (図 4、5)。果皮中クロロフィル含量はほぼ平年並で、果皮中アントシアニン含量は平年よりやや高い状況です (図 6、7)。

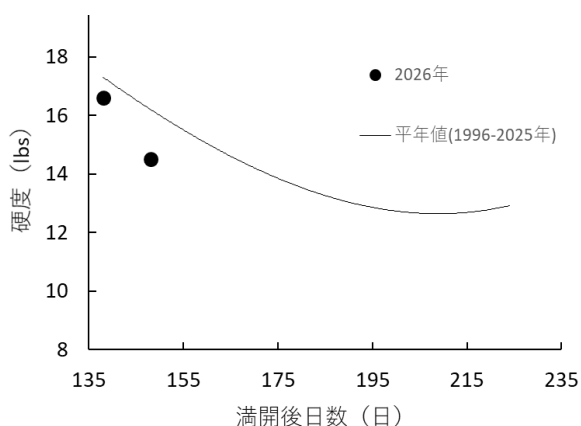


図4 「ふじ」の果実硬度の推移

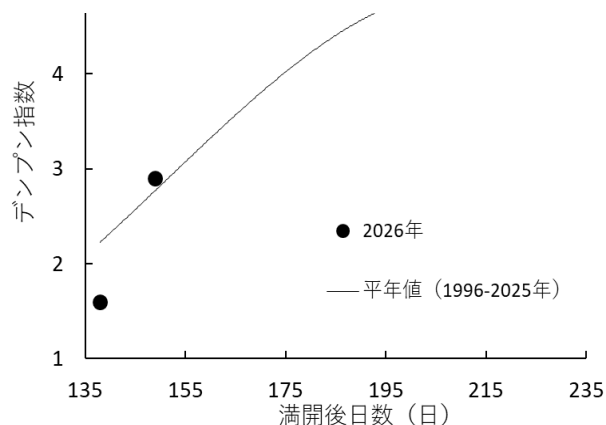


図5 「ふじ」のデンプン指数の推移

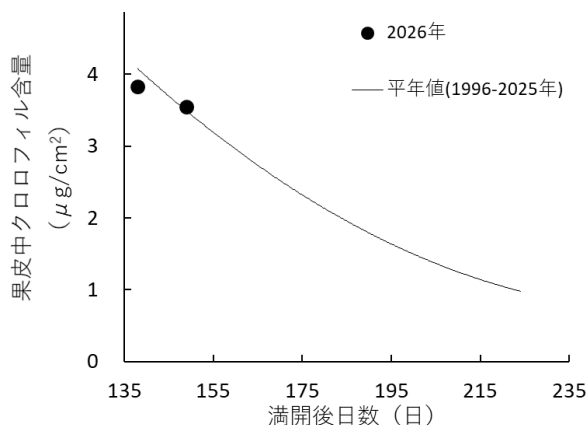


図6 「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

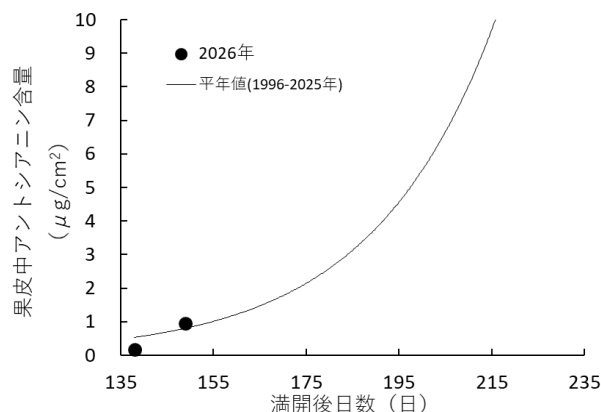


図7 「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

ウ 「ふじ」の裂果発生状況

満開後 149 日（9 月 15 日）における「ふじ」／マルバ台果実の外部裂果率は 3.3％で、前年より多く、2023～2024 年と同程度でした。内部裂果発生率は 20.0％と過去 3 年間と比較して多い傾向でした（表 5）。

表 5 りんご「ふじ」の裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率（％）				内部裂果発生率（％）			
		2026	2025	2024	2023	2026	2025	2024	2023
ふじ/マルバ台	24	3.3	0	3.3	3.3	20.0	16.7	13.3	6.7

(4) ぶどう

ア 収穫状況

収穫盛期は、「巨峰（無核栽培）」が 9 月 6 日で平年より 2 日早く、「高尾」が 9 月 14 日で平年より 2 日遅くなりました（表 6）。果実品質は、「巨峰（無核栽培）」「高尾」のいずれも果皮色および糖度が低い状況です（表 7）。

イ 「シャインマスカット」の成熟状況

満開後 102 日（9 月 14 日）における「シャインマスカット」の成熟状況は、糖度が 14.6° Brix、酒石酸含量が 0.41g/100ml、糖酸比が 35.4 となっています（表 8）。

表 6 ぶどうの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰（無核栽培）	9/ 3	9/ 4	8/28	9/ 6	9/ 8	8/30	9/14	9/13	9/ 3
高 尾	9/14	9/ 7	8/28	9/14	9/12	8/30	9/14	9/16	9/ 3

注 1）平年値は「巨峰（無核栽培）」は 1998～2025 年、「高尾」は 1996～2025 年の平均

注 2）本年産「高尾」は花振るいによる着房数減少のため、一回での収穫とした。

表 7 ぶどうの果実品質

品種	果皮色 (カラーチャート値)			糖度 (° Brix)			酒石酸 (g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰(無核)	8.5	9.5	9.0	15.5	16.7	17.5	0.56	0.52	0.49	27.8	33.3	35.6
高 尾	8.8	10.0	9.8	16.3	19.1	19.7	0.58	0.48	0.45	28.2	40.9	44.8

注) 「巨峰（無核）」は 1998～2025 年、「高尾」は 1996～2025 年の平均値

表 8 ぶどう「シャインマスカット」の成熟経過

品種	調査日	満開後 日 数	果房重 (g)	1 粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	糖酸比
シャイン	8/25	82	608.6	12.8	13.1	0.67	19.4
マスカット	9/14	102	614.3	15.1	14.6	0.41	35.4

4 栽培上の留意点

(1) なし

ア 収穫

「あきづき」の収穫は、日本なし地色用カラーチャートで地色指数が 4 を越えると、糖度は高くなるものの、硬度が低下してシャリ感が消失する傾向が認められます。果実の糖度や食味の点で優れる地色指数 3.5～4 を目安に収穫を進めましょう。また、収穫が遅くなると果肉障害が発生しやすくなるため、適期収穫に努めましょう。

「ラ・フランス」の収穫基準は表 9 を参考にし、収穫が遅れないように注意しましょう。

表9 「ラ・フランス」の収穫適期基準

生育日数 (日)	地色指数	硬度 (lbs.)	デンプン 指数
160～165	3.0	11	3.0～3.5

イ 秋肥の施用

中生種以降の品種は、落葉までの期間が短いため、収穫期中盤から収穫直後に実施しましょう。窒素肥料は速効性肥料を使用し、窒素成分で5～10kg/10a程度（「幸水」：中肥沃度地帯の場合）を施用しましょう。肥持ちの悪い土壌や有効土層の浅い土壌では、速効性肥料と緩効性肥料を組み合わせて施用しましょう。

(2) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

1回目の葉摘みは、果面が30%程度着色した10月中旬頃から果実に接している葉を数枚程度摘みましょう。10月中旬以降の2回目の葉摘みは、個々の果実に光が当たるように丁寧に実施しましょう。

玉まわしは、陽光面の着色が進んだ段階で実施し、反対面の着色向上を図ります。1回だけでは不十分なので、さらにもう1回実施しましょう。

反射シートの敷設は10月上旬ごろから開始し、遅れないように実施しましょう。枝の下垂が目立つ骨格枝等には枝吊りや支柱立てを行いましょう。

イ 中生種の収穫

地色、着色、デンプンの抜け、果実の肉質、食味等から総合的に判断し、品種特性に応じて適期収穫に努めましょう。

(3) ぶどう

ア 収穫期

収穫が遅れると脱粒や果肉が軟らかくなるなど果実品質が低下しやすくなるため、適期収穫に努めましょう。

イ 秋肥の施用

収穫後の9月中旬ごろは秋根が活発に伸長する時期で、養分吸収も盛んであるため、秋肥を施用し、貯蔵養分の蓄積に努めましょう。ただし、新梢の遅伸びにも影響するため、新梢の停止状況、葉色、新梢の登熟程度などをよく観察して施肥の量を判断しましょう。

施肥は尿素を中心に速効性肥料を使用し、窒素成分で2kg/10a（年間施肥量の3割程度）を目安に施用しましょう。

なお、樹勢が強い樹、葉色が濃く、遅伸びしている新梢が多い樹には、施用を控えましょう。

5 病虫害防除上の留意点

9月は長雨が続き、次年度の病害の発生が多くなることが懸念されるため、秋期防除を徹底しましょう。また、気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病・リンゴ炭疽病

9月上旬における褐斑病の発生は場割合は、県北、会津地域で平年よりやや高く（令和8年9月4日付け病虫害防除情報）、今後発病が急増するおそれがあります。本病は罹病落葉で子のう胞子が越冬し、翌年の伝染源となるため、越冬菌密度を低く抑えることが重要です。

本病の発生が多い場合、晩生種を対象にストライド顆粒水和剤を1,500倍で使用しましょう。ただし、ストライド顆粒水和剤は高温時に使用すると薬害が発生するおそれがあるため注意が必要です。なお、薬剤の総使用回数と収穫前日数に十分注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

また、炭疽病が認められる場合は、二次感染により発生が拡大するおそれがあるため、罹病果は見つけ次第速やかに除去しましょう。

イ モモせん孔細菌病

9月上旬におけるモモせん孔細菌病の発生は県北地域で平年よりやや多く（令和8年9月11日付け病害虫発生予察情報）、9月以降降雨が続いているため、翌春に春型枝病斑の発生が多くなるおそれがあります。

収穫が終了した園では降雨前の秋期防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。なお、台風の接近が予想される場合は、通過前に必ず秋期防除を実施しましょう。

薬剤は4-12式ボルドー液、又はI Cボルドー412を30倍で使用するか、クレフノンを100倍で加用してコサイド3000を2,000倍で、又はクレフノンを100倍で加用してムッシュボルドーDFを500倍で使用する、2週間間隔で散布しましょう。ただし、コサイド3000及びムッシュボルドーDFは、高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。2回目以降の散布では、薬剤のかかり具合を確認し、新梢管理を見直しましょう。

ウ ナシ黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出（図8）が多くなる時期（果樹研究所では10月上旬～11月上旬）となります（図9）（参考：令和4年度普及に移しうる成果（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。薬剤散布は、落葉率80%頃を最終散布の目安として、オーソサイド水和剤80を600倍で使用し、2週間間隔で2～3回の散布（キャプタンの総使用回数に注意）を実施しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。2回目以降の散布では、薬剤のかかり具合を確認し、新梢管理を見直しましょう。



図8 露出した芽りん片生組織（枠内）

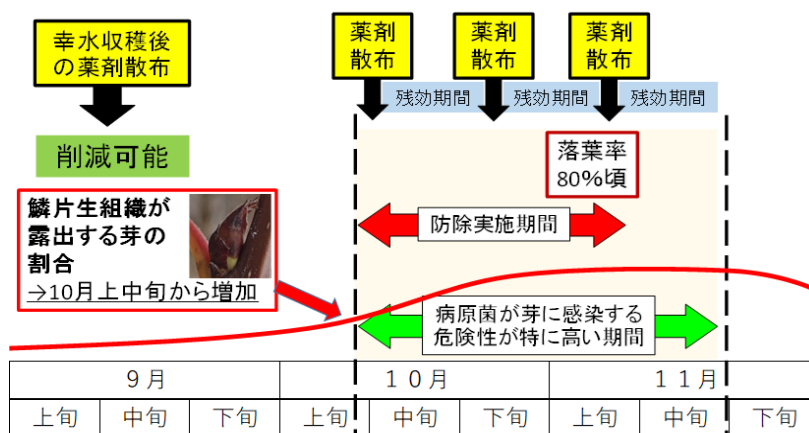


図9 なし及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、第6世代成虫の誘殺盛期は、9月4半旬ごろとみられ、第7世代幼虫の防除適期は9月5半旬と推定されます（表10）。

園地の状況を確認し、密度が高い園では越冬密度を低下させるために収穫後であっても防除を実施しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が2℃高く推移した場合、ナシヒメシンクイ第5世代幼虫の防除適期は、9月4半旬頃と推定される（表10）。

近年は、本種の第5世代によるなしの中晩生種の被害が散見されます。「幸水」の果実被害が目立つ園地では、中晩生品種を対象に防除を実施しましょう。また、被害拡大を防ぐため、シン

クイムシ類の被害果実は、水づけ等により適切に処分しましょう。

ウ カイガラムシ類

ナシマルカイガラムシ第3世代のふ化開始は、9月3半旬頃と予測され、今後の気温が2℃高く推移した場合、ふ化盛期は9月6半旬頃と推定されます（表10）。

カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

エ コスカシバ

本種による被害が多いもも園では、収穫後（9月中旬～下旬）に本種に登録のあるジアミド剤を散布しましょう。なお、薬剤を選択する際には使用回数に注意しましょう。

オ 樹上越冬害虫

ナミハダニやコナカイガラムシ類等の樹上越冬害虫を誘殺するため、9月下旬ごろに枝幹部に麻袋や飼料袋などを巻き付けてバンド誘殺を行い、2月上旬に取り外して適正に処分しましょう。

表10 果樹研究所における防除時期の推定（令和8年9月15日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第6世代 誘殺盛期	第7世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期
2℃高い	9月18日	9月23日	9月9日	9月18日
平年並	9月19日	9月24日	9月9日	9月19日
2℃低い	9月20日	9月27日	9月9日	9月19日

起算日：モモハモグリガ第5世代誘殺盛期8月26日（予測値）

ナシヒメシンクイ第3世代誘殺盛期8月11日

今後の気温予測	ナシマルカイガラムシ	
	第3世代 ふ化開始	第3世代 ふ化盛期
2℃高い	9月15日	9月29日
平年並	9月15日	10月3日
2℃低い	9月15日	10月10日

起算日：ナシマルカイガラムシ3月1日（演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>